

七月に入り今年もお盆の時期となりました。

毎年迎えるお盆ですが、この一年の間に大切な方を亡くされ、今年のお盆が新盆となる方もいらっしゃるかと存じます。長い間日本の文化ともなっているこの行事に、皆様はどのような思いを込められているのでしょうか。

ご自宅には御盆棚・精霊棚を用意し、お墓をきれいにしてお先祖さまをお迎えし、たくさんのお食事や飲み物などをお供えします。お仏壇のあるご実家に里帰りされる方も多いことでしょう。ご家族がそろって亡き方やご先祖さまと時間を共にすることが、何よりのお供え、供養になるかもしれません。

家族といえども現代社会は何かと忙しく、三度の食事を一緒にすることもままならないことが多く、すれちがう場合も多いことでしょう。

また、近しい方を亡くされた方にとっては、亡き方を忘れていないわけではないのですが、いつもそのことで頭をいっぱいにして、ずっと悲しみに沈んでばかりもいられず、自分の日常生活を取り戻してゆくことも大切なことです。

そんなときに、お盆の時期に仕事や勉強をちょっと休んで家族がそろい、心を合わせて、供養の気持ちをもって共に過ごし、ほとけさまを含めた家族の絆を更につよめる、そんな時間を過ごすことに、亡き方やご先祖さまもきっと喜んでくれるはずですよ。

その時間が、亡き方と過ごした日々の掛け替えのなさ、悲しみを共にした大切な家族、慰め

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

てくれた友人知人との縁などを改めて感じさせてくれます。さらに、ご先祖さまのおかげで自分があることを知り、自分が数え切れないほどの命と繋がり、支えられていることに気付かされるのではないのでしょうか。

自分自身が、大きな命の繋がりの中で、過去のたくさんの命の上に生きていて、今もたくさんの命と共に生きて、さらに未来の命へと繋がっているのです。

先に逝ってしまったけれど、もう会えないかもしれないけれど、あなたがいてくれたから今の私がある…。これからも私にはあなたがいてくれるし、あなたには私たちがついて…。その想いをお盆の供養に託すことができたなら、どんなに素晴らしいことでしょう。

— 終 —